

魅力発信！えひめ農業

令和7年8月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、8月中に各普及拠点から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
8月のトピックス5選	3
いちご育苗期高温対策研修会を開催	3
就農予定者に経営開始前研修を実施	3
雑穀栽培講習会を開催	4
夏のハウス作業を快適に！ 遮光対策はじめました！	4
青年農業者組織が自主企画マルシェを開催	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
第3回就農初期農業者研修会を開催	6
「ひめの凜」の品質向上に向けて穂肥講習会を開催	6
若手花き、花木生産者が県外産地や市場関係者と意見交換	7
水稻新品種「にじのきらめき」の収穫始まる	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
収穫作業体験と食育クイズで農業や地域食材への理解を促進	8
ポポラスベリーの出荷で新規就農者の所得向上	8
さくらひめ四国中央会が6次産業化の先進事例を調査	9
■東予地方局 産地戦略推進室	9
新技術の理論を学ぶいちごスクールの開催	9
■今治支局 地域農業育成室	10
就農初期農業者へ経営・技術指導を実施	10
鳥獣管理専門員が研修会で新たな技術を習得	10
就農予定者と農業生産法人を対象とした農作業安全研修会の開催	11
今治産さといもの試し掘り調査実施	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	12
かんきつ栽培の先端技術や気候変動対策技術を学ぶ	12
わな猟スキルアップ第1回現地研修会（大三島）を開催	12
施肥の省力化に向けドローン活用研修を開催	13
■今治支局 産地戦略推進室	13
バターナッツカボチャの安定生産に向けた生育・収量調査を実施	13
高温対策で遮光と環境モニタリングを実証	14
FC 今治ホームゲームに新規出店し、しまなみ特産加工品を来場者にPR	14
■中予地方局 地域農業育成室	15
新規就農者の経営状況把握と技術指導の実施	15
JA 松山市と就農研修生の支援方策を協議	15
東温市拝志地区の代表者らがサル対策を学ぶ	16
「愛果28号」100%ジュースで消費者と交流	16

興居島の新規就農者等を対象に勉強会を開催	17
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	17
七折小梅の安定生産等に向けて取組みを検討	17
伊予農業高校のグローバル GAP 認証に向け学習会、内部審査を実施	18
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	18
新たな雑穀メニュー提供施設が開店	18
トマト新規就農者への定期生育調査と指導を実施	19
■中予地方局 産地戦略推進室	19
「さくらひめ」夏季自家育苗の取組みを推進	19
■南予地方局 地域農業育成室	20
加工用びわせん定講習会を開催	20
イノシシを中心に鳥獣害対策を講習	20
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	21
自動航行ドローンによるくり園防除の実証と研修会の開催	21
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	21
将来を担う若い担い手に対し愛南町の優良事例を学ぶ園地互評会を開催	21
令和7年産米の品質と新品種「にじのきらめき」の生産拡大に向けて	22
■南予地方局 産地戦略推進室	22
つるむらさき未利用部分活用に向けた取組み	22
■八幡浜支局 地域農業育成室	23
就農予定者が新規就農者と意見交換を行う	23
新規就農者がドローン防除と仕上げ摘果を学ぶ	23
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	24
柿「太秋」有望系統の安定生産技術実証ほを設置	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	24
「奥伊予特選栗」園地審査会の開催	24
農業女子グループが SNS による活動 PR 方法を勉強	25
新規さといも栽培者に向けた研修会を開催	25
■農産園芸課 高度普及推進グループ	26
令和7年度愛媛県スマート農業推進協議会を開催	26

8月のトピックス5選

標 題	いちご育苗期高温対策研修会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年8月18日	場所	西条市玉津	
指導対象	いちご生産者等（35人）	連携機関	管内 JA、全農、農産園芸課、農林水産研究所	
普及指導内容	○昨年度は異常な高温により、いちごの苗が枯死して不足したり、花芽分化の大幅な遅延により単価の高い年内の出荷を諦める農家が続出したことから、高温対策技術について生産者同士で議論する研修会を開催した。 ○当室では、今年度、5つの高温対策技術（①冷却効果の高い底面給水ポット、②外気導入、③煙突型換気扇、④屋根散水、⑤赤外線反射塗布剤）の検証を進めており、研修会では、参加者がそれぞれの効果を肌感覚で確かめた。			
結果と今後	○設置が容易で、比較的安価な外気導入と煙突型換気扇の反応が良かった。 ○生産者からは「最近気温が高すぎて、いちごがもう作れなくなるのではないかと不安な気持ちになっていたが、まだまだやれることはあるなと思った」「資料で見るのと実際に見るのでは印象が違った。想像していたより涼しい」との声が聞かれた。 ○今後は、高温対策技術の効果を費用対効果ベースで分析するとともに、外気導入については、定植後の高温対策としてさらに実証試験を行う予定。			
 冷却ポットについて生産者同士で議論  外気導入設備の効果を確認  煙突型換気扇の説明を受ける				

標 題		就農予定者に経営開始前研修を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日		令和7年8月21日		場所	JA おちいまばり 本店
指導対象		就農予定者（11人）		連携機関	日本政策金融公庫、今治市、上島町、JA（おちいまばり、今治立花）、農業共済組合
普及指導内容		○農業経営開始時に必要な認定新規就農者制度や制度資金・補助事業等の活用に向けての研修会を開催した。 ○就農に向け、各自が将来目指す経営ビジョンや目標を明確にし、綿密な青年等就農計画書を作成することや、就農初期に必要な資金や補助事業の活用について各関係機関から説明を行った。			
結果と今後		○参加者からは、「経営開始に向け事業計画を立てる必要性が理解できた」「制度資金や補助事業等の情報を得ることができ就農に向けた準備を進めることができる」等の感想が聞けた。 ○今後は、就農計画作成や補助事業の活用などについて関係機関が連携しサポート体制を強化し支援していく。			
 関連する制度等について説明					

標 題	雑穀栽培講習会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年8月21日	場所	久万高原農業指導班	
指導対象	町内雑穀生産者（6人）	連携機関	県立上浮穴高校 久万高原町	
普及指導内容	○講習会では、今年度の雑穀栽培の現状や課題等について情報共有を行うとともに、病害虫防除の方法や出荷価格についての意見交換を行った。 ○また、生産量確保や道の駅及び実需者への出荷促進を目的とした「雑穀栽培研究会」の周知を行った。			
結果と今後	○参加者は室内研修や農業指導班実証ほ場での現地研修を通して、栽培及び収穫後の加工調製に係る知識・技術の向上を図った。 ○「雑穀栽培研究会」について、参加者のうち4人及び上浮穴高校が加入の意向を示した。今後、町内道の駅と協議を行い、会員及び道の駅からの推薦や、農業者団体等への周知及び会員募集により、新規会員の獲得に努めていく。			





左：課題等について情報共有

右：栽培技術を相互研鑽

標 題	夏のハウス作業を快適に！ 遮光対策はじめました！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年8月8日	場所	松野町吉野	
指導対象	施設きゅうり生産者（2人）	連携機関	JA えひめ南、松野町農林公社、松野町	
普及指導内容	○当該実証農家は、昨年、8月上旬定植の抑制きゅうりにおいて、高温対策の遮熱資材を被覆することで、初期生育の促進を確認した。 ○今年はさらなる昇温抑制対策を実証するため、遮熱剤をドローンで散布し昨年導入したネットを被覆した区（旧ネット＋遮熱剤併用区）、新たな遮光ネットを被覆した区（新ネット区）を設けた。			
結果と今後	○旧ネット単独処理に比べ、旧ネット＋遮熱剤併用区では、1～2℃の高温抑制効果が確認でき、新ネット区は差がなかった。 ○実証農家からは「ハウス内の温度が数度下がるだけでも、身体的な負担は大幅に軽減される」「きゅうりにとっても生育しやすい環境だ」との感想があった。 ○今後は、きゅうりの生育や収量・品質を調査し、採算性も含め各種遮光資材の検証を進める。			





左：ドローンによる遮熱剤塗布

右：各種遮光ネットの設置

標 題	青年農業者組織が自主企画マルシェを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年8月16日	場所	長高水族館（大洲市長浜町）	
指導対象	長浜未来協議会会員（18人）	連携機関	県立長浜高等学校	
普及指導内容	○当班は、長浜未来協議会から、地元高等学校と連携した地域農業のPR活動として「長高マルシェ」を実施したいとの要望を受け、その企画・運営を指導した。 ○同協議会主催のマルシェは初。 ○協議会員が生産・加工したみかんジュースやドライフルーツ販売に合わせ、大洲喜多地区生活研究会や地域おこし協力隊などにも出店を呼びかけ、同高のオープンスクール実施日に開催した。			
結果と今後	○当日は家族連れや県外からの来場者で賑わい、マルシェを通じて高校生をはじめ幅広い世代と交流を深めるとともに、長浜町や地場産農産物の魅力を発信できた。 ○今後も地元企業や他産業との連携を推進し、PR活動や地域貢献活動など、協議会の自主的な活動を支援していく。			
【長浜未来協議会】 「誇れる長浜を次世代に」をキャッチフレーズに長浜町内の農業従事者が中心となり農業を通して地域活性化に貢献する組織として令和5年度に設立。 通称 MIRAI 'Z（ミライズ）。  みかんジュースの販売 （長浜未来協議会）  じゃこ天、野菜等の販売 （大洲喜多地区生活研究会）				

えひめ農業

標 題	第3回就農初期農業者研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年8月7日	場所	県西条第二庁舎及び現地ほ場（西条市田滝、田野他）	
指導対象	新規就農者、青年農業者等（15人）	連携機関	西条市、新居浜市、JA周桑	
普及指導内容	○新規就農者等が栽培技術や経営知識を学ぶ研修会の第3回講座として、管内で突出して高収益を上げている生産者の栽培技術を学ぶ現地研修会を開催した。 ○研修会では、農業指導士や生産部会の部会長3人が講師となり、それぞれが栽培するきゅうり、さといも、アスパラガスの3品目について、高収益につながる栽培のポイントの他、異常高温に対応するためのかん水方法や根域の作り方等を説明した。			
結果と今後	○参加者は、自身の栽培とは異なる栽培技術に大きな関心を示し、自身の栽培にも活かそうとする前向きな姿勢が伺えた。 ○同研修会の9月の講座では、多品目の野菜類を周年直販する施設野菜農家や、全量を都市部に直販する施設かんきつ農家のほ場でその栽培技術を学ぶほか、メーカー協力のもと、最新のスマート農機を現地で説明する研修会を開催する。			
  夏秋きゅうり栽培のコツを説明  さといも栽培のポイントを説明  アスパラガス栽培の魅力を語る				

標 題	「ひめの凜」の品質向上に向けて穂肥講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年7月28、31日 8月1、4日	場所	JA周桑研修センター他	
指導対象	JAえひめ未来、JA周桑「ひめの凜」認定栽培者（304人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑） 農産園芸課、農林水産研究所	
普及指導内容	○「ひめの凜」の栽培後期における管理の徹底等を図るため、管内7か所で講習会を開催した。 ○講習会では、今年度の気象状況を踏まえ、穂肥の施用や水管理、病虫害防除、収穫調製の方法等を説明するとともに、今年産からの新たな品質区分等について説明し、参加者と意見交換を行った。			
結果と今後	○参加者からは、カメムシの発生や穂肥の施用時期等に関する質問が次々とあがり、耐暑性にも優れた「ひめの凜」栽培に高い関心を持っていることが伺えた。 ○9月下旬頃から収穫を迎えることから、異常高温となった本年度も高品質の米が生産できるよう、カメムシ防除の徹底や水管理等について切れ目のない指導を行う。			





ウンカ、カメムシ

1 ウンカ






セゾウウンカ(雌雄) セゾウウンカ(雄) トビロウンカ(雌雄) ドビロウンカ(雄)

2 水稻を被害するカメムシ類





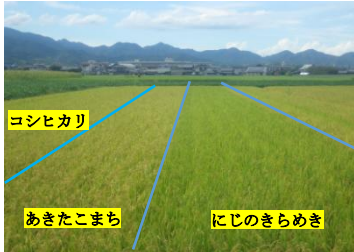

イネカメムシ 短ノスズカメムシ シラカシカメムシ ホシハシカメムシ クレベリカメムシ アカスズカメムシ

今年、カメムシ類の発生が多いとみられる。稲刈りや穂肥最後の施与や収穫後の米ちかひ曜から新しい曜に、多くのカメムシが移動し、発生する。

出産後、品質向上対策

講習会の説明スライド

標 題	若手花き、花木生産者が県外産地や市場関係者と意見交換		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年8月26日～27日	場所	千葉県君津市、(株)大田花き他	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会 花き実践班（5人）	連携機関	-	
普及指導内容	○君津市のミモザを栽培する生産者のほ場では、せん定や出荷方法、産地拡大の戦略、新規有望品目などについて意見交換をした。 ○(株)大田花き、(株)オークネット、FLOWER(株)では、市場の動向や、新しい流通形態について意見交換を行った。			
結果と今後	○メンバーが主力品目として取り組んでいるミモザの栽培技術や、注目される新規品目の情報を得ることができ、今後の経営の参考となった。 ○産地側からの情報発信の重要性を再認識したことから、当室では、今後市場への生産状況の効果的な伝達方法等についてグループと共に検討する。			
 ミモザ生産者との意見交換  市場関係者との意見交換  市場の動向把握				

標 題	水稻新品種「にじのきらめき」の収穫始まる		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年8月29日	場所	西条市禎瑞、北条	
指導対象	西条地区「にじのきらめき」栽培農家（8人）	連携機関	JA（周桑、えひめ未来）	
普及指導内容	○「にじのきらめき」の試験栽培に取り組んでいるほ場において、収穫期における品種比較調査を行うとともに、同品種を乾田直播で栽培するほ場において、収量性や雑草の発生程度等を調査した。			
結果と今後	○5月中旬に「にじのきらめき」を移植したほ場では、8月29日から収穫が始まっており、あきたこまちと比較して7日程度登熟が遅いものの、草丈は低く葉に穂が隠れるような草姿で高温による白未熟粒が少なく、単収も高いことが見込まれている。 ○同品種を乾田直播で栽培したほ場では、発芽が遅い「にじのきらめき」の感温特性から播種後に除草剤を使用した結果、生育全期において雑草の発生を抑え、単収も移植栽培と変わらない見通しとなっている。 ○本年度の収量、品質が判明後、品種試験結果を講習会等で生産者に説明する。			
 出穂期の「にじのきらめき」  品種比較試験ほ  「にじのきらめき」の乾田直播ほ				

標 題	収穫作業体験と食育クイズで農業や地域食材への理解を促進		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年8月23日	場所	四国中央市土居町蕪崎	
指導対象	市内小学校児童及び保護者（188人）	連携機関	四国中央市、JA うま、NOSAI えひめ	
普及指導内容	○当班では、関係機関と連携し、地産地消の推進に向け、市内小学校児童と保護者らを対象とした「学校給食米収穫祭」を毎年実施している。 ○今年度は、猛暑の中、汗をかきながら、稲の収穫体験や食育講座、おにぎりづくりを行い、農業や地域食材への理解と関心を促した。 ○当班は食育講座を担当し、お米や地域特産品等について、クイズ形式で学習支援を行った。			
結果と今後	○児童からは「暑かったけど、いっぱい収穫できて楽しかった」「クイズは難しかった」などの声が聞かれ、農業への関心を得ることができた。 ○学校給食米は、市内51戸の農家が「コシヒカリ」や「にこまる」を栽培しており、今後「うまそだち」として年間約100t供給される見込み。 ○当班は、秋に開催される学校給食交流会を通して、引き続き、食農教育や地産地消の推進を支援する。			



左：鎌を使って収穫作業を体験

右：家族でクイズの難問に挑戦

標 題	ポポラスベリーの出荷で新規就農者の所得向上		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年8月20日	場所	JA うま豊岡支店	
指導対象	花木生産者（1人）	連携機関	JA うま	
普及指導内容	○収益性が高く産地拡大に取り組んでいる「ポポラスベリー」について、今年度の初出荷にあたり、傷んだ葉の除去や束のボリューム感などの出荷調整方法を指導した。 ○昨年度は輸送による品質保持が課題となり、その改善方法について JA とともに検討した結果、トラック冷蔵便の活用が可能となり、品質保持に向けた出荷体制が整った。			
結果と今後	○東京市場における「ポポラスベリー」の評価は非常に高く、継続した出荷を求められており、栽培者は「所得向上につながる経営の柱の品目になる」と栽培意欲を示している。 ○今後も、「ポポラスベリー」を、「うまの花」の「ピットスポラム」や「ヒムロスギ」に続く有望品目として、生産拡大に向けた取組みを推進していく。			





左：産地化を目指す「ポポラスベリー」

右：荷造り調整後、東京市場へ出荷

標 題	さくらひめ四国中央会が6次産業化の先進事例を調査		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年8月29日	場所	香川県小豆島	
指導対象	さくらひめ四国中央会員（5人）	連携機関	—	
普及指導内容	○当室は、さくらひめ四国中央会メンバーが、新たな農業の魅力発信方法を習得するため、地元農産物を利用した6次産業化に取り組む事業者の事例調査を実施した。 ○自社でオリーブを生産し加工販売を行っている「井上誠耕園」や、手延べそうめんの箸分け作業体験ができる「手延べそうめん館」で6次産業化のコツ等を学んだ。			
結果と今後	○事業者から、農作物の加工方法やパッケージのこだわりなどを聞き取り、メンバーが取り組む新たな商品開発に向けたアイデア創出の一助となった。 ○また、メンバーが学んだ事例説明や指導方法等については、9月、11月に川之江北中学校で行う出前授業において生かすことを申し合わせた。			





左：オリーブ園地案内

右：手延べそうめん箸分け作業体験

標 題	新技術の理論を学ぶいちごスクールの開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年7月10日～8月28日	場所	西条第二庁舎	
指導対象	いちご生産者等（累計144人）	連携機関	JA（周桑、東予園芸、えひめ未来）	
普及指導内容	○当室では、オランダ式環境制御技術を導入する一環として、いちごの生理生態や環境制御技術の理論を学ぶ「いちごスクール」を7月から8月にかけて計7回開講し、生産者やJA指導員など延べ125人が参加した。 ○スクールでは、「いちごの生育にとって最適な平均気温は、日射量 10MJ/m² のときに 15℃」といったように具体的な数字を用いて指導を行った。 ○また、後から反復して学べるよう、スクールの内容は動画にして限定公開で配信した。			
結果と今後	○生産者からは、「過去のどの講習会よりも勉強になった」「今までにこのような講習会はなく、本当に感謝している」「スクールで学んだことを実践してみるといちごの様子が変わった。栽培が楽しくなってきた」との声が聞かれた。 ○10月から専門家と普及指導員が協働して新技術の実践方法を指導する予定。			

【いちごスクールの内容】

第1回 高収量を目指すには

第2回 育苗管理

第3回 定植後の管理

第4回 生育調査と環境データ

第5回 湿度とかん水管理

第6回 炭酸ガスの施用/生理障害

第7回 厳寒期・暖候期の管理



スクールの様子



第6回炭酸ガスの施用・生理障害

配信した動画

標 題	就農初期農業者へ経営・技術指導を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年8月13、25、26日	場所	今治市内各地	
指導対象	経営開始資金等受給者（15人）	連携機関	今治市、JA おちいまばり	
普及指導内容	○就農サポート支援チームでは、経営開始資金等の受給者を対象に、個別面談による経営状況の確認や栽培ほ場での技術指導等を実施した。 ○面談では、直近の決算書や作業日誌等の確認、青年等就農計画の計画達成状況や課題の聞き取りの他、栽培ほ場の管理状況確認後の栽培技術指導を通じて、経営改善に向けた指導助言を行った。			
結果と今後	○対象者は新規参入者10人、Uターン5人、作目別では野菜栽培9人、かんきつ栽培が5人、畜産1人。 ○農業収入では、多くが前年を上回っているが、初期の施設整備や農薬・肥料等に係る経費の割合が大きく、約5割が所得目標を達成できていない。 ○今後は、サポート支援チームが核となり、早期の経営確立・安定化に向け、技術習得支援や経営改善に向けた補助事業及び制度資金の活用等の指導を継続し、地域農業の担い手として育成していく。			
  左：経営状況の聞き取りを実施 右：ほ場で栽培技術を指導				

標 題	鳥獣管理専門員が研修会で新たな技術を習得		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年8月29日	場所	今治市大西町山之内	
指導対象	えひめ地域鳥獣管理専門員（東予地域）他（13人）	連携機関	JA おちいまばり、農産園芸課	
普及指導内容	○東予地域で活動する「えひめ地域鳥獣管理専門員」の資質向上を図るため、小型獣対策として既存防護柵を活用した簡易複合柵（目合の大きいワイヤーメッシュ柵へ防獣ネットを設置し、電気柵を付加したもの）の設置実習を行った。 ○これは、かんきつ園で増加するハクビシンによる被害軽減のため、当室が新たな対策として提案したもの。			
結果と今後	○設置後は、継続してセンサーカメラを活用して侵入・被害状況を確認するとともに、効果検証を行っていく。 ○東予地域では、現在、鳥獣管理専門員認定者が13人活動しており、今後も各地域で活動を進めるとともに、情報交換の場を設ける等、地元主体の対策を推進していく。			



設置内容など説明



改良前のWM柵



改良後の簡易複合柵

標 題	就農予定者と農業生産法人を対象とした農作業安全研修会の開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年8月21日、27日	場所	JA おちいまばり 本店	
指導対象	就農予定者（11名） 管内農業生産法人役員他（12名）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○就農予定者に対し、農作業安全についての理解を深めることを目的とし、農作業事故の実態や要因、現場で使える事故防止チェックリストを用いた研修を実施した。 ○また、農業生産法人役員を対象とした研修では、熱中症予防指導士を講師として、熱中症の概要説明や労働安全衛生規則の改正に係る熱中症対策の実践的な提案、対策に有効なアイテムの紹介などを行った。			
結果と今後	○就農予定者に対し、農作業安全に関する知識を提供し、チェックリストの配布を行うことで、農作業安全についての意識づけを図ることができた。 ○農業生産法人役員からは、熱中症対策のためのアイテム導入を検討する声も上がった。 ○今後も、実践的な農作業安全研修を継続的に行い、農作業事故の防止に取り組む。			



就農予定者への農作業安全研修



農業生産法人代表の研修会



講師の熱中症予防指導士

標 題	今治産さといもの試し掘り調査実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年8月27日	場所	今治市内各地	
指導対象	さといも生産者（9人）	連携機関	全農えひめ、JA おちいまばり	
普及指導内容	○令和7年産さといも「伊予美人」の肥大状況を把握するため、各地区の代表的な生産者9ほ場の試し掘りを実施した。			
結果と今後	○結果は、高温やハダニ類の多発の影響が危惧されたが、孫芋と子芋とも順調な肥大で、収量が平年比98%とほぼ前年並みであった。 ○掘り取った孫芋は、肥大途中の白い芋が多くあるため、講習会やほ場巡回等により、引き続き、かん水や病害虫防除等の管理指導を徹底していく。 ○今後、試し掘り結果等を基に JA 里芋部会役員会で出荷計画等を協議する。			





試し掘り結果	
	1株当り収量 (平年対比)
R7年産	1, 286g (98%)
過去11年平均	1, 314g
調査株数:3株	

試し掘りするさといも

標 題	かんきつ栽培の先端技術や気候変動対策技術を学ぶ		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年8月5日	場所	大信産業株式会社（尾道市）	
指導対象	岩城果樹研究会員（15人）	連携機関		
普及指導内容	○かんきつ栽培におけるスマート農業の普及状況や課題等について、民間企業の協力を得て研修会を実施した。 ○施設栽培における遮熱資材の特徴やコスト、ハウス内環境の観測システム等、近年の高温に対する対策の情報収集を行った。			
結果と今後	○ドローン利用に関しては、登録農薬の状況や防除効果、施肥作業の省力化に興味を示す生産者が多かった。 ○近年、施設栽培の高温対策として、遮熱効果のある資材が多く販売されていることから、効果や価格等タイムリーな研修となった。			
 先端技術の聴講の様子  技術資料  農業用ドローンの説明				

標 題	わな猟スキルアップ第1回現地研修会（大三島）を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年8月22日	場所	今治市上浦町瀬戸崎、大三島町宗方	
指導対象	青年農業者（7人）	連携機関	農産園芸課 鳥獣害対策係 JA おちいまばり	
普及指導内容	○若手狩猟者の育成プログラム（（県）わな猟スキルアップ実践事業）を受講する、大三島の青年農業者7名が、わな猟の技術を習得するために、イノシシの侵入被害のある園地での実践研修会に参加した。 ○現場では、事前の室内研修会で製作した「くくりわな」を受講生が設置し、場所の選定や覆土、わな設置後の地面の高さなど、適切な設置の仕方について専門家のアドバイスを受けた。 ○「箱わな」についても、設置場所の選定や餌付け方法、わな作動に重要なトリガーについてのポイントを学んだ。			
結果と今後	○受講生は、自ら設置したわなについて、設置のポイントを他の受講生に説明するなどして、イノシシ等の生態に基づく効果的な捕獲技術について認識を深めていた。 ○今後も引き続き、専門家と連携しながら青年農業者等の捕獲技術の向上と地域の鳥獣害対策の推進に向けて支援していく。			





左：効果的なくくりわなの設置方法の説明

右：箱わなのトリガーについての説明

標 題	施肥の省力化に向けドローン活用研修を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年8月26日	場所	今治市上浦町盛	
指導対象	上浦町青年農業者協議会員他（18人）	連携 機関	大信産業（株） JA おちいまばり	
普及指導 内容	○かんきつ栽培において、防除とともに重労働となっている施肥作業へのドローンの有用性を示すため、施肥実演研修会を開催した。 ○当研修会は、上浦町青年農業者協議会が主催し、今年ドローンを導入した会員のほ場にドローンで施肥を実施。			
結果と 今後	○一般に使用している2種類の肥料合計112kg（14a分）を15分程度で散布した。 ○風圧で樹体上に残ることもなく、均一に散布されており、参加者は「きれいに散布できており、何より早く楽だ」「施肥は辛いので、傾斜地では散布を頼みたい」など、前向きな意見であった。 ○当班では、10年後を見据えた、楽して儲ける未来型かんきつ栽培を実現できるよう、青年農業者を核として指導していく。			
  左：研修会の様子 右：ドローンによる施肥実演				

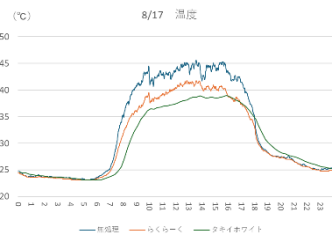
標 題	バターナッツカボチャの安定生産に向けた生育・収量調査を実施		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年8月5日、15日	場所	今治市乃万地区	
指導対象	実証生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり、トキタ種苗（株）	
普及指導内容	○イタリア野菜類の一つである「バターナッツカボチャ」は、今年度から市内食品加工業者と JA おちいまばりでの新たな取引が決まり、本格的な栽培に取り組んでいる。 ○栽培指針の作成に当たり、株当たり収量等の基礎データを収集するため、株間 60～100 cm に分けて生育調査及び収量調査を実施した。			
結果と今後	○調査の結果、株間 70～100 cm において「果数/株」「果重/株」が当初の予想値（10 果/株、10 kg/株）を上回ったものの、株間 60 cm と株間 70 cm の一部においてうどんこ病が多発し、収量に影響した可能性が考えられた。 ○高温・少雨の気象状況から、8 月下旬以降の栽培分は、9 月中旬の間で定植時期をずらして比較試験を実施する予定。 ○業者からは、加工のし易さのため、より大きな果実が求められており、今後は 1 果重の増加につながるような追肥のタイミング・量等の予備試験を併せて行い、結果を生産者等に共有することで、栽培指針づくりに反映し安定生産につなげていく。			





左：収穫したバターナッツ

右：収量調査の実施状況

標 題	高温対策で遮光と環境モニタリングを実証		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年8月26日	場所	今治市朝倉、菊間、玉川地区	
指導対象	野菜生産者（5人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○近年、様々な農作物で夏季の高温による影響が問題となっていることから、当室では、管内の主要な野菜5品目のハウスに遮光資材を被覆し、暑さ対策の効果を実証している。 ○実証と併せて、他県で先進的に導入が進められている安価で設置が容易な環境モニタリング機器をハウス内に設置し、遮光による温度変化の把握と将来的な環境制御の実践に向けた取組みを行った。			
結果と今後	○遮光によって日中のハウス内温度は3～5℃程度低く推移し、温度の上昇ペースも緩やかになっていることから、高温ストレスの軽減が期待できることが示唆された。 ○生産者からは、「きゅうりの葉焼けなどの症状が緩和され、生育が明らかに変わっている。今後絶対に必要になる技術である」と期待と関心の高さが伺えた。 ○今後は、生育及び収穫量調査の結果を踏まえた遮光資材の効果を検証するとともに、環境モニタリング機器のデータを活用した温度や生育管理を指導していく。			
 高温障害（きゅうり葉焼け）  遮光と環境モニタリング機器  遮光でハウス内温度が低下				

標 題	FC 今治ホームゲームに新規出店し、しまなみ特産加工品を来場者に PR		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 7 年 8 月 30 日		場所	アシックス里山スタジアム
指導対象	しまなみみんなのディッシュ会員（3 団体）		連携機関	(株) 今治. 夢スポーツ (FC 今治)
普及指導内容	○しまなみみんなのディッシュ（以下「ディッシュ」）の更なる認知度向上と販路拡大を目的に、FC 今治ホームゲームにおける新規出店を支援した。 ○当日は「楽農研究所」「しまなみイノシシ活用隊」「井上苺園」の 3 会員が出店し、グルメブースにおいて自社商品を販売するとともに、当室はディッシュの活動や常設販売所等の説明を並行して行うことで、多くの来場者に PR を図った。			
結果と今後	○商品「贅沢こおり」「イノシシウインナー」「いちごスムージー」は好評に完売し、「また購入したい」「今治でこのような取組みがあることを知らなかった」などの声が聞かれ、格好の PR の場となり、来シーズン以降の継続出店に向けた調整を進めていく。 ○FC 今治は全国に情報発信できる有力なコンテンツであることから、今後も連携を強化し、更なる企画を検討するなど、ディッシュの販路拡大・PR 活動を強力に支援し、新たなファンづくりと産地の魅力向上につながる取組みを創出する。			

【しまなみみんなのディッシュ】

・ 今治市及び上島町の生産者や加工業者等で組織するグループで、しまなみ地域に芽吹いた加工品等の PR や販路拡大、農業の魅力発信等を行っている。
(R7.8 現在：34 会員)



販売開始から次々と来店



県内外から多くの来場者で満員

標 題	新規就農者の経営状況把握と技術指導の実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年8月4日～26日（17日間）	場所	松山市内各地	
指導対象	新規就農者 65 人（55 戸）	連携機関	松山市	
普及指導内容	○現地確認は、例年8月と2月の年2回実施しており、新規就農者の経営状況を的確に把握することで、個々が抱える課題の解決や就農計画の達成状況の判断に資する。 ○また、当日は、本年度の生育や出荷状況等を聞き取るとともに、栽培品目におけるかん水や病虫害防除、高温対策等の技術指導を行った。			
結果と今後	○多くの就農者は、概ね順調な状況であったが、一部の農作業が遅れている人や計画内容を変更している人等については、引き続き、関係機関で連携して重点的に指導していく。 ○また、2月の現地確認では、本年度新しく国の支援を活用することとなった人も対象に含め約60人（約50戸）の予定。			
  左：ユーカリの整枝指導 右：かんきつのかん水指導				

標 題	JA 松山市と就農研修生の支援方策を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年8月21日		場所	JA 松山市新規就農センター、岡田支所
指導対象	JA 就農研修生3人		連携機関	JA 松山市、農地・担い手対策室
普及指導内容	○令和7年4月に本格始動した JA 松山市の就農研修センター（松前）の運営と研修生に対する就農支援方策について、当室と JA で協議を行った。 ○研修ほ場では、JA の主要品目である松山長なす等の栽培状況を確認するとともに、研修生から作業内容の聞き取りをした。 ○室内協議では、JA から現状の課題や本年度のカリキュラム等の説明があり、当室から露地野菜における土着天敵の推進や、研修生等対象の農業機械研修について情報を提供。			
結果と今後	○当日は、松山長なす、さといも、白ねぎ等を対象に、研修生が丁寧に収穫や管理作業を実施。 ○当室が主催する農業機械の実技研修に、研修生3人全員の参加要望があった。 ○引き続き、管内で就農研修生に関係する JA や組織との連携強化を図り、円滑な新規就農者の確保・育成につなげていく。			
  左：さといも研修ほ場 右：研修生に対する支援策を協議				

標 題	東温市拝志地区の代表者らがサル対策を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年8月21日	場所	西条市橘地区	
指導対象	拝志地区の土地改良区代表者(18人)	連携機関	東予地方局農業振興課 西条市、東温市	
普及指導内容	○東温市拝志地区(上林・下林・上村地区の総称)は、水稻を中心とした棚田が広がるが近年サルの食害が増加するとともに、家庭菜園等への被害も拡大しており、地元土地改良区を核とした地区全体でサル対策を検討している。 ○今回、サル対策の先進事例を調査するため、昨年度檻の設置によりサルの個体数調整に成功している西条市橘地区の取組みの視察を企画するとともに、サルの生態等について説明を行った。			
結果と今後	○実際に見ることで、参加者が具体的な導入イメージを持つとともに、地元での運用を想定した檻やエサ、処分方法等について積極的に意見交換を行い、疑問点を解消することができた。 ○来年度予算の活用を見据え、今回の参加者らが再度集まり役割分担等を協議する。			

【地獄檻】
1 辺が約 4m の移動組立式大型檻で、主に群れ単位の大量捕獲に適した檻。
捕獲体制時、檻内に入った動物は脱出ができない。



地獄檻の視察



関係者を交えた意見交換

標 題	「愛果 28 号」100%ジュースで消費者と交流		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 8 月 24 日	場所	松山市中島長師	
指導対象	姫たちばな会員（6 名）	連携機関	－	
普及指導内容	○「姫たちばな」は、令和 4 年度から継続して「ひめの国一次産業女子活躍推進事業」に取り組んでおり、今回、令和 6 年産かんきつを原料に搾汁したジュースの試飲を通じて、消費者交流と中島に関する情報発信を行った。 ○第 37 回「トライアスロン中島大会」のメイン会場では、選手や応援に来島した一般消費者等を対象に、「愛媛果試第 28 号」100%果汁ジュース（720ml 入×53 本（約 320 人分））を無料で提供。 ○中島産の高級柑橘であることをアピールし、プレミアム感を強調した。			
結果と今後	○試飲した消費者等からは、「美味しい」「濃厚な味」などの高評価の意見であった。 ○「姫たちばな」では、本事業を活用して先進地視察や他地区のマルシェ見学などを予定しており、当室としても、会員の更なる資質向上に向けて支援していく。			
【姫たちばな】 中島地域の女性農業者で構成。 技術研修や先進地視察により、資質向上に取り組む他、各種イベントへの参加や、SNS を通して中島の魅力を発信。  試飲ブース  試飲する消費者等				

標 題	興居島の新規就農者等を対象に勉強会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 8 月 26 日	場所	松山市泊	
指導対象	かんきつ農家（12 人）	連携機関	JA 松山市果樹部会、JA 松山市	
普及指導内容	○新規就農者等を対象に、栽培技術に関する勉強会を新たに開催し、伊予柑の仕上げ摘果及び「紅プリンセス」と「せとか」の苗木管理について指導した。 ○併せて、近年、夏季の高温で問題となっている日焼け果対策のほか、「甘平」の裂果や「紅プリンセス」のす上がり対策について情報提供を行った。			
結果と今後	○参加者からは、「優良園地を見学したことにより、栽培技術について理解を深めることができた」「喫緊の課題である日焼け果対策はとても参考になった」との意見があり、好評であった。 ○当室では、定期的に勉強会を開催して欲しいとの要望があることから、新規就農者の早期レベルアップと農家同士の情報共有を図るため、今後、月 1 回程度開催予定。			
 苗木管理の指導  「せとか」優良園地の見学  栽培管理について意見交換				

標 題	七折小梅の安定生産等に向けて取組みを検討		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和 7 年 8 月 5 日	場所	砥部町七折集会所	
指導対象	農事組合法人ななおれ梅組合 生産農家(19 戸)	連携機関	JA えひめ中央、県内卸売市場	
普及指導内容	○当班では七折小梅の優良系統への改植などによる安定生産対策を支援しているところであり、今回、同組合が令和 7 年産の七折小梅の収穫量と出荷状況等をもとに、組合員や県内の市場関係者との意見交換を行う決算会を開催した。 ○また、決算会において当班から 5 月末に実施した、ひめカレ学生の実務研修アンケートの調査結果を報告するとともに、新規就労者確保に向けた研修機会の年間計画等について提案を行った。			
結果と今後	○令和 7 年産七折小梅の収穫量が予想数量を上回る結果となり、組合長から改植による安定生産の効果が現れ始めているとの報告があった。 ○さらに次年度の安定した収量確保のための技術対策や担い手不足と雇用による収穫・出荷等の作業効率の低下に係る改善対策について活発な意見が交わされた。 ○今後、収穫・出荷流通面からの作業効率の改善や就労者の確保支援に向けた実務研修の見直しについて検討する予定。			
 組合員・市場関係者との意見交換会				

標 題	伊予農業高校のグローバル GAP 認証に向け学習会、内部審査を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和 7 年 8 月 25 日	場所	伊予農業高校、同校白水農場	
指導対象	県立伊予農業高校生等(15 人)	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	○同校では平成 30 年にグローバル GAP(水稻)の認証を取得して以降、毎年、認証更新に取り組んでおり、今年度も生徒らの GAP への理解をより促進するための講義及び内部審査を実施した。 ○講義では、GAP の概要や取組みの進め方、国や県における GAP の推進状況、国際水準 GAP の基本分野等について説明した。 ○内部審査では、基準書に基づく 210 項目に係る書類の確認と現地調査を行い、商品回収が生じた際の手順の見直し等について、改善点を指導した。			
結果と今後	○参加者からは「GAP に取り組む意義を改めて学習できた」「今回の指摘を本審査までに改善したい」等の意見があった。 ○今後、9 月末の本審査に向け、同校に指摘した内容の改善や基準書の項目の再確認を働きかけ、GAP の取組みを通じた持続可能な農業の実現を目指す。			

【グローバル GAP】
グローバル GAP は食品安全・環境保全・労働安全・人権保護・農場経営管理の 5 項目に配慮した「持続的な生産活動」を実施する農業者に与えられる世界共通の認証制度



講義の様子



整理整頓されている現地倉庫

標 題	新たな雑穀メニュー提供施設が開店		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和 7 年 8 月 8 日	場所	久万高原町久万	
指導対象	タネマキ食堂店主（1 人）	連携 機関	県立上浮穴高校、久万高原町	
普及指導 内容	○昨年度、町内の商店街で、毎月第 2・第 4 金曜日にランチメニューを販売していた「タネマキ食堂」が国道 33 号線沿いの空き店舗を活用して、新規開店した。 ○「タネマキ食堂」ではカレーやベーグル、スイーツ等店主のこだわりメニューとあわせて、店主がアドバイザーとして参画し、当班が雑穀加工等の支援を行った上浮穴高校開発の「ぷちきびカレー」をアレンジした雑穀カレーが販売されている。			
結果と 今後	○開店以降、時間帯によっては屋外のテラス席まで満席になる日もあり、雑穀カレーの販売も好調である。 ○なお、「タネマキ食堂を久万高原町の雑穀に関する情報の発信基地としたい」という店主の意向があり、当班では雑穀の PR や町内産雑穀の確保に係る支援を進めていく。			
  左：タネマキ食堂の外観 右：販売されている雑穀カレー				

標 題	トマト新規就農者への定期生育調査と指導を実施		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年8月27日	場所	久万高原町内各地	
指導対象	新規就農者、研修生（12人）	連携機関	久万高原町営農支援センター	
普及指導内容	○新規のトマト生産者等の技術力強化のため、就農1～2年目の生産者および久万農業公園の研修生を対象に、6月から約2週間おきにトマトの生育や病害虫発生状況を調査し、それに基づく栽培管理や病害虫防除技術指導を実施中である。			
結果と今後	○調査結果に基づき、ほ場毎の適切な肥培管理や病害虫防除について随時指導することで、新規就農者等は、トマト栽培に関する知識や技術を生育段階に応じてタイムリーに学べ、生産技術力の向上につながる。 ○今後、9月まで生育調査を実施し、若手就農者の定着を支援していく。			



左：若手生産者のほ場で適切な管理指導を実施

右：トマトの生育調査を実施

標 題	「さくらひめ」夏季自家育苗の取組みを推進		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年8月22日、29日	場所	中予管内平坦地各所	
指導対象	さくらひめ生産者（5人）	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」において、卒業式等の需要期出荷を目的に夏季自家育苗技術の実証に取り組んでいる。 ○今回、は種時期を迎えた生産者に対して、は種後のスポットクーラーや冷蔵庫等を活用した育苗管理について指導した。			
結果と今後	○今年度は、は種から発芽までの1週間程度、冷蔵処理を行った後、冷蔵庫と育苗ハウスで交互に育苗する間欠冷蔵処理の実証にも新たにに取り組む。 ○定植時期を前進化させるため冷蔵育苗施設（冷蔵庫内でLED照明により育苗）を新たに自作した生産者もあり、現場における夏季自家育苗の定着につながっている。 ○引き続き、生産者や関係機関と連携して実証に取り組み、夏季自家育苗技術の確立による収益向上を目指す。			





スポットクーラーの設置



冷蔵庫内で LED 照明により育苗

標 題	加工用びわせん定講習会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 8 月 6 日	場所	宇和島市三浦	
指導対象	加工用びわ生産者（3 人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市	
普及指導内容	○加工びわせん定講習会を開催し、約 10 年生のは場で、風通しの改善による病気の発生抑制や作業の省力化の観点から、せん定を確実に実施するよう指導した。 ○当室では、加工用果実の産地化を関係機関と取り組んでおり、7 月 30 日には今後の方針等についての協議も実施。 ○令和 7 年産加工用びわの生産状況は前年と比べてカメムシや鳥獣被害が少なく、前年比 130%であった。			
結果と今後	○参加者からは、せん定方法や、低樹高化、病虫害防除等の熱心な質問があり、作業の省力化について関心が高いことがうかがえた。 ○今後も関係機関と協力し、びわやかきの省力栽培技術の指導を行い、加工用果樹産地の拡大や安定供給に努める。			



左：加工びわせん定講習会

右：加工用果実の生産実績や今後の生産方針についての会議

標 題	イノシシを中心に鳥獣害対策を講習		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年8月21日	場所	みかん学校	
指導対象	新規就農者（4人）、みかん学校研修生（4人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市	
普及指導内容	○鳥獣被害の拡大を受け、新規就農者等を対象に、守りの対策としての侵入防止柵の設置と生息環境整備、攻めの対策としての有害鳥獣駆除、鳥獣害対策に関する補助事業について講習会を実施。 ○現地ほ場では、イノシシ対策のワイヤーメッシュ柵の設置、潜り込みを防ぐ効果がある竹による下部の補強対策を実習した。			
結果と今後	○参加者からは、「隣接地に耕作放棄地があり、柵の前に緩衝地帯を設けにくく、どのように囲むのが良いか悩んでいる」との意見があり、「集落全体を囲う対策もあるので、補助事業の活用も含めて地域で考えることが大事」と助言した。 ○今後も市やJAと連携して、「守り」「攻め」「地域体制づくり」を組合せた鳥獣害対策を推進する。			





左：座学の様子

右：園地実習

標 題	自動航行ドローンによるくり園防除の実証と研修会の開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年8月20日	場所	鬼北町下大野、松野町蕨生	
指導対象	くり生産者、ドローンオペレーター、県立北宇和高校生など（30人）	連携機関	JA えひめ南、鬼北町、松野町、ドローンワークス宇和島	
普及指導内容	○管内のくり園の多くは、傾斜が急で周囲を高い雑木林に囲まれており、ドローン防除にあつては、高度な位置情報（RTK）を活用した自動航行散布が不可欠であり、今年度は、管内5か所のくり園で実証を計画している。 ○また、当班のほ場において、くり生産者やオペレーター向けの研修会を開催し、ドローン取扱業者がRTK 測位を活用した自動航行の設定方法等を説明し、実際に農薬散布をデモンストレーションした。			
結果と今後	○生産者からは「ドローンで散布できる農薬（高濃度少量散布登録）は増えるのか」「殺菌剤も散布できるようになるのか」といった登録拡大に向けた要望が相次ぐなど、期待の高さがうかがえた。 ○今後は、実証園地の果実被害を調査し、防除効果や費用対効果等を検証しつつ、ドローン防除の普及へつなげていく。			



左：自動航行運航図
（鬼北農業指導班くり実証ほ）

右：自動航行による農薬散布
（松野町蕨生くり園）

標 題	将来を担う若い担い手に対し愛南町の優良事例を学ぶ園地互評会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年8月27日	場所	愛南町内各地	
指導対象	愛南地区青年農業者協議会（18人）	連携機関	—	
普及指導内容	○作業性を重視したせん定を実施している「河内晩柑」独立樹ほ場のほか、紅シリーズの優良事例、給液装置を備えたかん水設備を自主施工した園地等を巡回し、栽培管理について意見交換を行った。 ○また、当班が取り組む「河内晩柑」のカットバックや自根処理実証について説明した。			
結果と今後	○参加者からは「優良事例を実際に目の当たりにし、刺激になった」「栽培管理の不明点を確認でき、有意義であった」など、今後の営農に意欲的な意見が聞かれた。 ○当協議会では、会員相互の活発な意見交換を促すため、定期的に園地互評会を開催しており、当班は引き続き、青年農業者のさらなる資質向上に向け各種研修会を開催していく。			



「河内晩柑」優良事例ほ場の紹介



紅シリーズの説明

【自根処理実証】

「河内晩柑」は樹勢が強く、台木を覆うように穂木の根(自根)が伸長する場合があります。過繁茂や着果不良に陥ることから、自根に傷を付け、生育抑制を図る。

標 題	令和7年産米の品質と新品種「にじのきらめき」の生産拡大に向けて		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年8月28日	場所	愛南町内全域	
指導対象	愛南町内早期米栽培農家（350人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○愛南町の水稲作付面積370ha の8割が早期栽培で、今年産からは新品種「にじのきらめき」が50ha 作付けされるなど、水稲増産に向けた取り組みが拡大しており、「コシヒカリ」とともに肥料試験や生育ステージごとの講習会を開催している。 ○また、当班では、町単事業「愛南町ドローン防除等普及支援事業」を活用した広域防除の実施にも取り組んでいる。			
結果と今後	○8月28日時点では、斑点米カメムシの被害は少なく、高温耐性がある「にじのきらめき」は1等比率93%と高い品質を確保。 ○収量も570～660kg/10aと「コシヒカリ」対比で2割以上多いと回答する農家が多く、「作付けを増やしたい」「コシヒカリから全面的に切換えたい」との声も多い。 ○当班では、「にじのきらめき」に適した肥培管理指導に加え、冬季のブロッコリーを組み合わせた、愛南町独自の水田経営モデルの作成にも取り組む。			
 「にじのきらめき」生産実証ほの収穫				

標 題	つるむらさき未利用部分活用に向けた取り組み		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年8月7日	場所	JA えひめ南三間営農センター	
指導対象	つるむらさき生産者（19名）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○収穫時に廃棄する茎葉（未利用部分）に着目し、新規加工品（ぎょうざ）開発に向け、生産者等を対象とした試食検討会を開催。 ○茎葉の量を変えた試食品の風味や食感等、商品に求めるポイントをアンケート形式で収集した。 ○また、未利用部分の新規需要の掘り起こしに向け、県外市場への共同出荷が始まった。			
結果と今後	○アンケートの結果、回答者の43%がより使用量が多いぎょうざを美味しいと感じ、具材として薬物野菜を好ましいとする回答も多く、「つるむらさき」ぎょうざの将来性を感じる結果となった。 ○未利用部分は市場においても期待感を強く感じる価格設定となっていることから、9月には加工事業者との協議、県外市場関係者へのヒアリングを実施するなど、生産者の所得向上につながるよう積極的に活動する予定。			





左：生産者から意見を聞く普及員

右：つるむらさき使用量別試食品
（使用量 左：約7% 右：15%）

標 題	就農予定者が新規就農者と意見交換を行う		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年8月5日	場所	南予地方局八幡浜支局	
指導対象	農業次世代人材投資事業（就農準備資金）に係る交付対象者及び受給者（13人）	連携機関	JAにしうわ、伊方町、公益財団法人えひめ農林漁業振興機構	
普及指導内容	○当室では、管内の就農予定者に対し、就農後の具体的な営農イメージの確立と経営等の不安を解消することを目的に、令和6年度より新規就農者との交流会を開催している。 ○交流会では、就農予定者から、実際の就農後の経営状況や失敗経験などについて相談があり、就農5年未満の新規就農者が、自らの経験に基づいたリアルなアドバイスを行った。			
結果と今後	○参加した新規就農者は「数年前まで同じ立場であった就農予定者と交流・意見交換することで、地域の良き仲間に巡り合え、お互いに成長できる場としてありがたい」と、毎回参加を希望する者も現れている。 ○今回の交流会で出された就農予定者の不安や疑問については、今後実施する個別巡回指導や定期面談時に当室からもフォローし、就農予定者の円滑な就農につなげていく。			
 左：農業次世代人材投資事業（就農準備資金）説明会 右：研修生OBとの交流会				

標 題	新規就農者がドローン防除と仕上げ摘果を学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年8月27日	場所	八幡浜市神山	
指導対象	新規就農者・就農予定者（14人）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	○当室では、新規就農者の定着と早期の経営安定を目的に、JAとの共催により、かんきつ経営に必要な管理技術等について、実践形式で学ぶ講習会を定期的に開催している。 ○今回は、管内農業生産法人が取り組んでいるドローン防除と仕上げ摘果の実演を交え、ドローン利用時の注意点や、温州みかんと中晩柑で方法が異なる摘果のポイント等を指導した。			
結果と今後	○ドローン活用には初期投資の壁があるものの、労働力確保に不安を抱える者はたいへん関心が高く、熱心な質問が相次いだ。 ○また、仕上げ摘果では、自ら作業することでコツをつかんだほか、果実の日焼けや高温対策についても質問があった。 ○今後は、更に知見を高めるため、スマート農業や農作業安全、せん定、石積みに関する講習会を順次開催する。			
 左：ドローン防除 右：仕上げ摘果講習会				

標 題	柿「太秋」有望系統の安定生産技術実証ほを 設置		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年8月1日	場所	内子町大瀬	
指導対象	－	連携 機関	JA 愛媛たいき	
普及指導 内容	○柿「太秋」は、良食味で人気が高く高単価であるが、着花（果）の不安定さに加え、汚損果など果皮障害による正品率の低下から安定生産が難しく、対策が求められている。 ○そこで当班では、県内で発見され、着花量が確保しやすいとされている有望系統を接木導入し、その特性を調査している。 ○さらに、ブドウなどに使用する‘カサ’を果実ごとに掛けることで、果皮障害や鳥類の食害、日焼け果の発生を抑制する実証を開始した。			
結果と 今後	○これまでの調査から、同系統はすべての結果母枝に雌花が着生し、在来系統よりも着果量を確保しやすいこと、現在まで果実肥大等も順調であることを確認している。 ○今後は、同系統の着色時期や果実品質の調査及び、カサ掛けの実証効果を確認し、安定生産技術の確立を目指す。			
			左：有望系統の着果状況 右：カサ掛けの実証	

標 題	「奥伊予特選栗」園地審査会の開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年8月1日、2日	場所	JA ひがしうわ特選栗審査ほ場 西予市城川町・野村町・宇和町	
指導対象	東宇和栗生産同志会（33人）	連携 機関	JA ひがしうわ	
普及指導 内容	○東宇和栗生産同志会は、安全・安心・高品質で、「愛」あるブランド産品としても認定されている「奥伊予特選栗」の認証に向け、園地審査会を開催し、当班も審査員として参加した。 ○今年度は33人の生産者から申請があり、低樹高を目指したせん定状況、肥培管理による樹勢や園地管理の状況、病虫害防除回数などが審査された。			
結果と今後	○審査の結果、31人の園地（延べ19ha）が「奥伊予特選栗」としての出荷資格を得た。 ○どの園地もよく管理されていたが、参加者から梅雨明け以降の少雨による葉巻き症状や果実肥大の抑制を心配する意見があったため、当班では、「奥伊予特選栗」の安定生産に向け、気象条件に応じた栽培指導を強化する。			
 左：園地の審査状況 右：審査内容の協議状況				

標 題	農業女子グループが SNS による活動 PR 方法を勉強		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和 7 年 8 月 7 日		場所	宇和地域づくり活動センター
指導対象	フレッシュあぐり媛～YATTE-MIYO☆LAB～（4 人）		連携機関	—
普及指導内容	○当班は、管内農業女子グループに対し、農業経営やグループ活動の PR に役立ててもらおうと、SNS 研修会を企画・開催し、知識習得を支援した。 ○グループ員は、これまで SNS による効果的な情報発信ができていなかったことから、県内 Web デザイナーを講師に招き、リール投稿での情報発信に適した構成・撮影テクニック・編集方法などを学んだ。			
結果と今後	○閲覧者を意識したリール動画の編集や発信方法の知識を深めることができ、今後発信する情報のレベルアップが期待できる。 ○グループ員には「えひめ農林水産業魅力発信事業」のレポーターを務める者もあり、さっそく取材や投稿に活かそうと意気込んでいた。 ○当班は、今後も女性農業者の活躍の場の創出と、リーダーとしての資質向上を図る取り組みを支援していく。			
  左：SNS 研修会の様子 右：当グループのInstagramの投稿 の状況				

標 題	新規さといも栽培者に向けた研修会を開催		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 八幡浜支局西予農業指導班
年月日	令和7年8月20日	場所	西予市野村町 さといもほ場	
指導対象	さといも生産者（11人）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	○野村地区では、新規のさといも栽培者や、栽培経験の浅い農家が多く、土入れやかん水などの基本管理作業の徹底が課題であったことから研修会を開催した。 ○研修会では、基本管理によって生育状況に大きく差がでることを理解してもらうため、生育調査を実施している 14 園地の生育状況の写真とデータを示して説明するとともに、今後の栽培管理や主要病害虫等について指導した。			
結果と今後	○参加者は管理状況による園地ごとの違いを見て、基本管理の重要性を改めて認識するとともに、病害虫に関する質問を積極的に行っていた。 ○今後、9月中旬の出荷開始に向け、試し掘りを行い、生産者との出荷打合せ会を実施予定。			
  左：栽培管理の説明 右：病害について質問する参加者				

標 題	令和7年度愛媛県スマート農業推進協議会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和7年8月6日	場所	果樹研究センター	
指導対象	-	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	○県では、大学や農機メーカーと連携の上、スマート農業推進協議会を設立し、スマート農業の速やかな技術開発と普及を目的に「愛媛県スマート農業推進方針」を策定している。 ○今年度、本方針に定めるロードマップの中期にあたることから、前期までの活動実績及び今後の方針等について各機関から中間報告を行うため、スマート農業推進協議会を開催した。			
結果と今後	○各報告に対して様々な質問や意見があがり、今後の活動に役立つ有意義なものとなった。 ○次回は、生産者やJAなど、より多くの人が参加できる内容での開催を計画しており、愛媛県のスマート農業推進に向けた取組みを一層強化していく。			





左：前期までの活動実績を報告

右：活発な意見交換・質疑応答

標 題	データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係る低コスト環境計測機器の製作講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和7年8月20日、26日、28日	場所	今治支局、果樹研究センター、宇和地域づくり活動センター	
指導対象	モデル農家、JA 営農指導員、普及職員等（58人）	連携機関	全農えひめ	
普及指導内容	○当グループでは、令和6年度からモデル農家（いちご・きゅうり・トマト）を対象に低コストのデータ駆動型栽培を実証しており、低コスト環境計測機器の製作講習会を開催した。 ○昨年度の実績を報告するとともに、環境モニタリングによるデータ観測に基づいた農業への取組みや低コスト環境計測機器の製作について指導を行った。			
結果と今後	○今回の講習会では、各班に分かれ温度・湿度（通風式）、CO ₂ 濃度、日射量が計測できる低コスト環境計測機器を製作することができた。 ○今後は、データの活用により、栽培を最適化し、儲かる農業の実現を目指す。			





左 環境計測機器の仕組みを説明

右 自ら環境計測機器を製作

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543